

3年音楽科 学習指導案 授業者 中山由美

1 題材の概要

題材名 ミュージック・アクティビティでクラス合奏を楽しむ

	目標	評価規準	評価資料
知識・技能	各自が目標とする音楽表現に必要な知識・技能が何かを知り、それらを身につけながら表現活動をする《第2・3学年A(2)イ》。	各自の目標と現状に合わせた知識・技能を見極め、それらを習得しようとしている。	知識テスト 観察による
思考・判断・表現	各自が対象楽曲をどのように表現したらいいか、そのためにどのような表現の工夫をすればいいのかを考え、試行錯誤しながら表現を試みる《第2・3学年A(2)ア・ウ》。	表現の工夫のしかたを考えたり、他者に相談したりする活動を通して、自らの音楽表現を高めようとしている。	活動の様子 の観察による
主体的に学習に取り組む態度	各自の活動に必然性を感じ、自らの表現技能の実態を知り、習得のための練習に取り組み、自らが思い描いた表現を実現させようとする《第2・3学年A(2)ア・イ・ウ》。	目的意識をもって練習に取り組み、音楽表現をつくりあげようとしている。	毎時間のふりかえりの記述による

2 題材の展開

題材の流れ（全6時間）

1	ミュージック・アクティビティについて概要説明、リーダー、曲目決定
2	パート、担当楽器の決定と練習
3	個人、パート練習
4	個人、パート練習と全体練習
5	個人、パート練習と全体練習 全体の構成、バランスを調整する。
6	収録とまとめ

本時（5 / 6時）の流れ

本時の目標

各自、各パートでイメージした演奏をつくるための活動を工夫し、合奏を楽しむ。

1. 現在の進捗状況を確認し、本時の目標を立てる。（5分）
2. それぞれの場所で楽器の準備をし、練習に取り組む。（25分）
3. 合奏練習をする。（15分）
4. 振り返りをし、次時の内容を確認する。（5分）

音楽科研究授業での、創造的活動×創造的思考×教科の見方・考え方

①創造的活動

【ミュージック・アクティビティ】

クラスの合議により選曲した楽曲を、各自が選んだ楽器でクラス合奏をつくりあげていく活動。初心者、経験者それぞれが自らの課題をもって練習に取り組み、他の音を聴き、自らの役割を感じながら、試行錯誤・創意工夫を繰り返していく。



②創造的思考

その曲らしさはどこにあるのか、8要素をもとに考えながら演奏しようとする。楽器の特性を生かしながら演奏しようとする。



③音楽科の見方・考え方

音楽に対する感性を働かせ、楽曲を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自らが担当する楽器・パートの役割を意識しながら合奏表現を楽しむ。



授業後の振り返り記述から読み解く試行錯誤と創意工夫

授業後に書く「振り返り」の記述から、試行錯誤、創意工夫の様子が読み取れる部分から、「つくる学び」の実際が明らかになる。

記述の一例

自力で練習する

初めてチューニングをしました。チューナーを使いながらでしたが細かい調整が必要だったため思っていたより時間がかかり、難しかったです。でも、時間をかけてチューニングが完了すると達成感と同時に嬉しくなりました！弾く前に準備する所から自分で行うことが大切だと気が付きました。

教わる

和音を楽譜に書いて来てくれたので自分たちはそれに則って練習しました。初めはどの音がどのチャイムかを把握することから始まり、色々試行錯誤が必要でしたが、何とか途中で演奏について行けるようになりました！また、トーンチャイムの音の出し方のコツについても先生からアドバイスをいただき、腕を滑らかに前に押し出し、音を出し終わった後はチャイムを毛布にあてて音を消すことが分かりました。

教える

練習時間中、トーンチャイムの男子たちに教えてほしいと懇願されたので教えました。教えるといってもコードを楽譜におこしただけですが、コードを分解してやっとトーンチャイムで - 叩けるようになるので分解してよかったです。